



1. 情報収集ってなぜするの!?

1. 情報収集の目的

みなさんは、実習で「何のために苦労して情報収集しているのだろう」と思ったことはありませんか。それとも「患者さんのために、とにかく情報収集しなくては」という熱い思いや「明日までに記録用紙を埋めないと」という焦りや不安などさまざまな思いに掻き立てられるように情報収集に取り組まれているのでしょうか。

情報収集を攻略して、よりよい看護につなげるために、情報収集とは何なのか、その目的について一緒に考えてみましょう。

情報収集が必要とされる実習では、その目的の1つとして患者さんの看護過程を展開することが求められています。

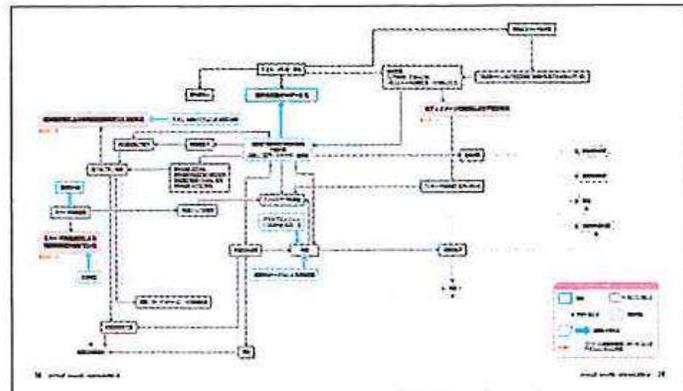
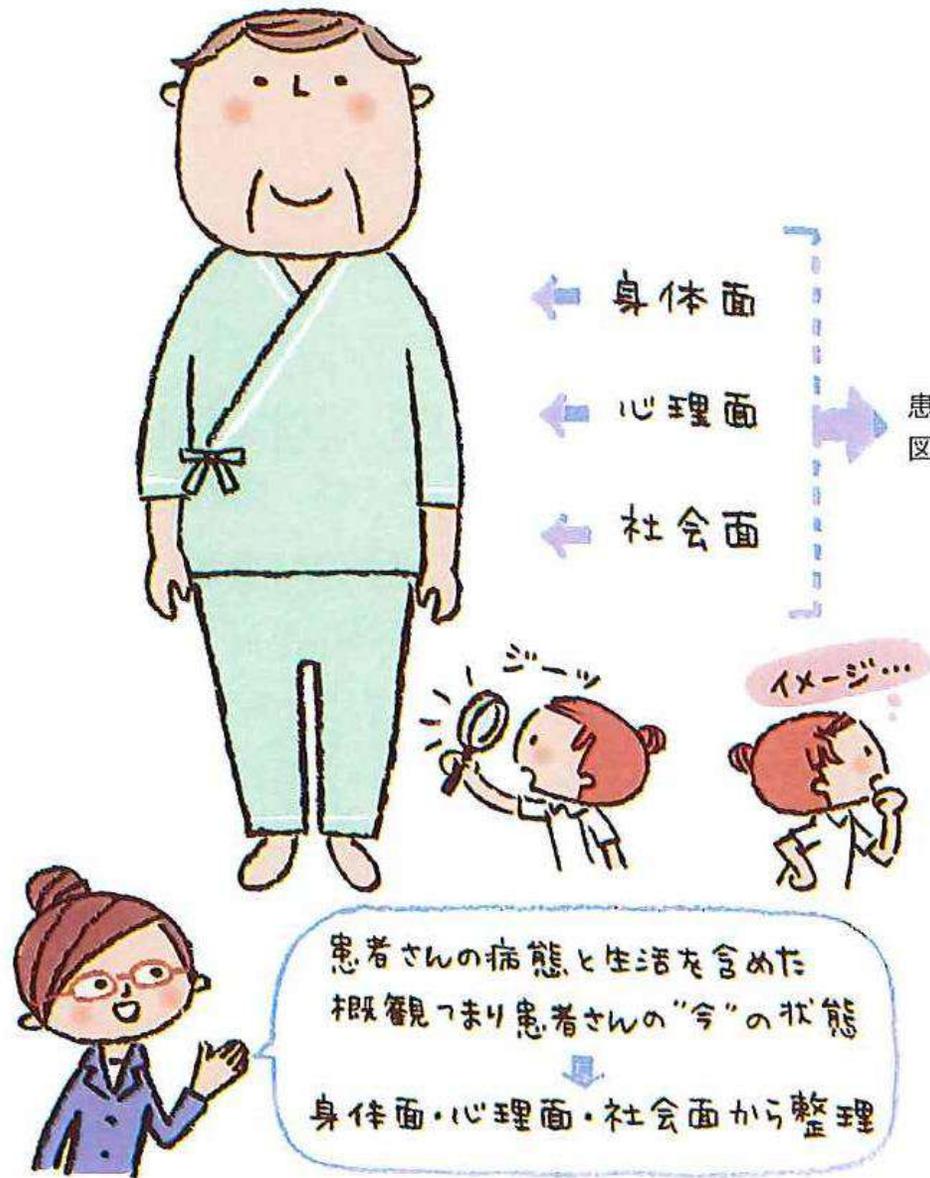
ここで看護過程について確認しておきましょう。

看護過程は、「対象の看護上の問題を明確にし、計画的に看護を実施・評価」（日本看護科学学会,1994）と定義されています。したがって、**看護の対象である患者さんがもつ看護上の問題を明確にし、それを解決するためのプロセス**といえます。



この看護上の問題を明確にするためには、今の「**患者さんの状態**」を示す情報を偏りなく集めた「**全体像**」が必要です。授業によっては、全体像という言葉のほかに、「統合」や「関連図」という表現が用いられていますので、どれか1つは聞いたことがあると思います。

患者さんの全体像をとらえよう！



患者さんの情報と情報のつながりを明確にしてイメージを図で表したものが関連図です。視覚的に図示されますので、看護上の問題をわかりやすく把握できます！

このプロセスによって皆さんが得た情報が、疾患や治療だけに偏っていないか、重複する疾患のうち、1つの疾患や症状だけを断片的に捉えていないか、患者さんを生活者として捉えられているかを見ていきます。皆さんにとっても受け持ち患者さんを客観的に確認するために活用できます！

したがって、情報収集の目的は、患者さんの看護上の問題を明確にするための前段階として、患者さんの全体像を捉えることにあります。

2) パートナーや家族



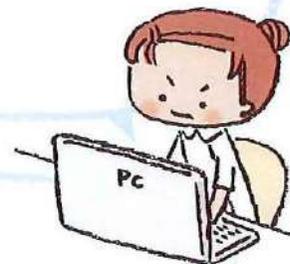
3) 医療従事者



4) カルテ

診療録

診療録には、入院の目的や治療・検査に関する医師の指示などの情報が記載されています。



看護記録

看護記録には、看護計画と実施状況や看護サマリーのような看護の視点で捉えた患者さんの情報が記載されています。

これまでの病棟実習初日を振り返ってみましょう。

本来、情報収集は患者さん本人から行うものですが、みなさんは、どのくらいの時間をかけて患者さんを見たり、患者さんから聞いたりしていましたか？ とくに実習初日、情報収集した情報全体の何割くらいの情報を患者さん本人から得ていたでしょうか？

次の実習では、実習初日から患者さんのベッドサイドに行き、患者さんを観たり、患者さんから聴いたりして情報を収集していきましょう。

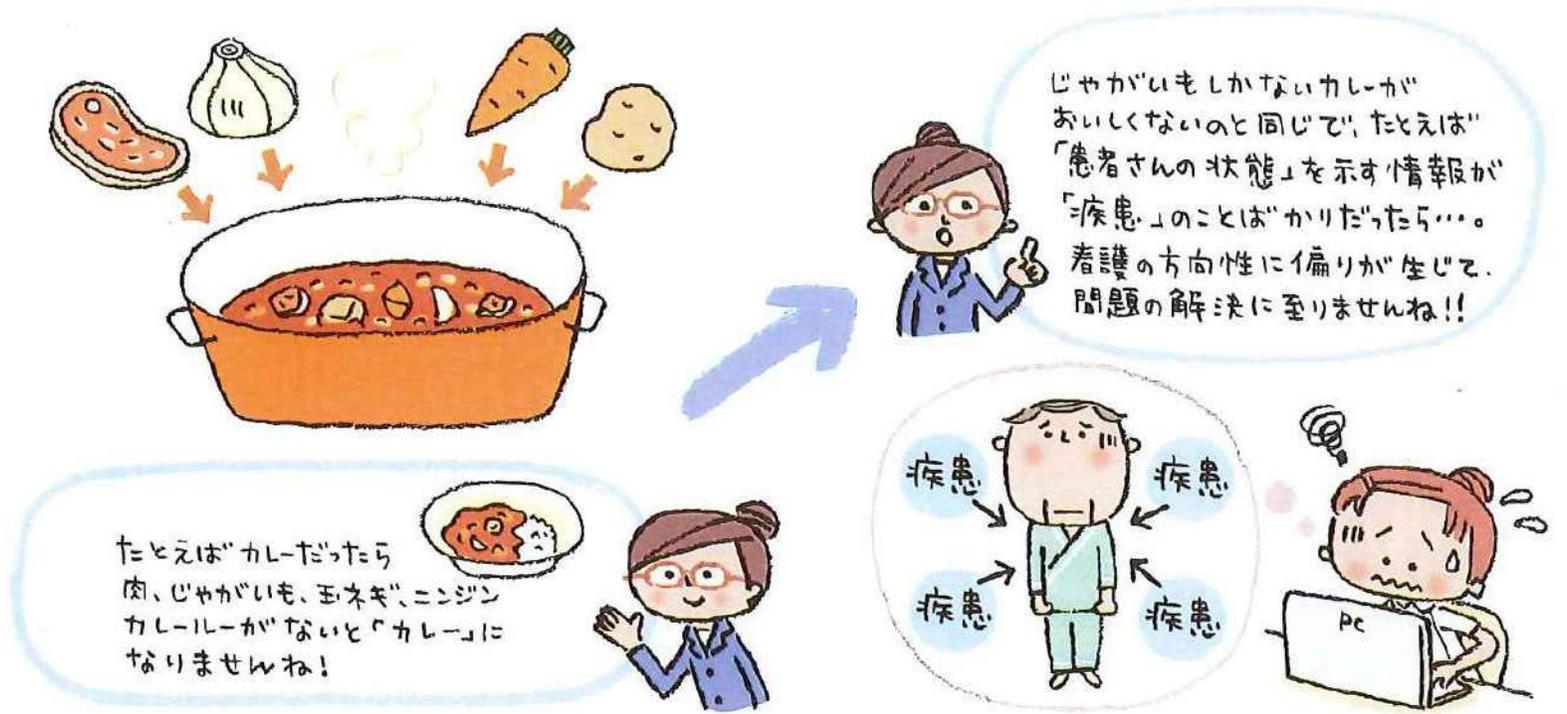


----- 3. 何を情報収集するの? -----

情報収集は、患者さんの看護上の問題を明確にするための最初の第一歩といえます。情報収集で、「患者さんの状態」を示す必要な情報が得られていないと、患者さんの全体像を描けません。全体像が描けないと、患者さんに適した看護上の

問題を抽出することができません。

このように考えると、みなさんががんばって情報収集をしなければいけない情報は、「患者さんの状態」を示す情報といえます。



今、患者さんがどんな状態にあるのかを知るために、過不足や偏りなく、バランスよく「患者さんの状態」を情報収集するための指標が、情報収集における枠組みの活用です。枠組みについてはp.38で説明します。



アセスメントがうまくいくための4つのポイント

アセスメントの ポイント 1

「目的・系統的なデータ収集」とは
どのようなことなのか、わかったうえでのデータ収集ができる

「目的・系統的なデータ収集」とは？

妥当性の高いアセスメントをするためには、まず「目的・系統的なデータ収集」を行う必要があります。これはどのようなことなのか、「目的・系統的なデータ収集」と「系統的なデータ収集」に分けてみてみましょう。

「目的・系統的なデータ収集」とは、「対象のどんなことについて明らかにするのか」という「**データ収集の目的**」を明確にして**行うデータ収集のこと**、「系統的なデータ収集」とは、「データ収集の目的」についての見解を得るために**必要と考えるデータを重点的に収集すること**をいいます。図1で例を挙げてみましょう。

図1 「目的的なデータ収集」「系統的なデータ収集」とはどのようなことか

目的的なデータ収集

- 「対象のどんなことについて明らかにするのか」という、“明らかにすること”を明確にして行うデータ収集
- 言葉を換えると「データ収集の目的」を明確にして行うデータ収集のこと

系統的なデータ収集

- 「データ収集の目的」が「対象の睡眠状態を明らかにする」であれば、「対象の睡眠状態は〇〇である」という〇〇の見解を得るために必要と考える睡眠に関するデータを重点的に収集すること

Aさんの
睡眠状態を明らかにしよう



そのために、このデータを
重点的に収集しよう

- 睡眠時間 ●熟睡感の有無
- 日中の傾眠傾向の有無 ●昼寝の習慣の有無
- 睡眠薬などの薬剤の使用の有無 など

Bさんの
排尿状態を明らかにしよう



そのために、このデータを
重点的に収集しよう

- 排尿回数 ●尿意の有無
- 排尿困難感の有無 ●残尿感の有無 など

- したがって、「目的・系統的なデータ収集」とは、
- “明らかにしたいこと”を明確にして、“明らかにしたいこと”が明らかになるためのデータを重点的に収集すること
 - データ収集の目的を明確にして、データ収集の目的について

「目的・系統的なデータ収集」をするには？

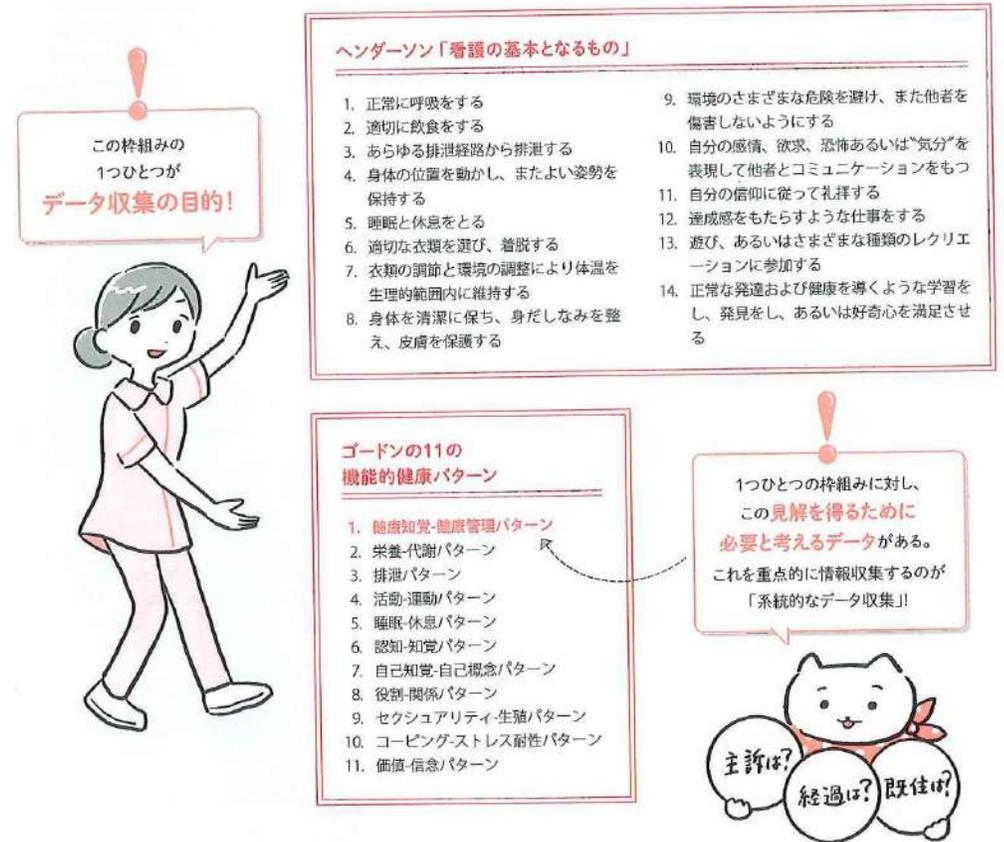
ここで、「看護理論家の提唱している対象をみる視点」、言葉を換えると、「看護理論家の提唱している看護の概念枠組み(以下、アセスメントの枠組み)」を活用してアセスメントを行う際の「目的・系統的なデータ収集」についてみてみます。

ての**見解を得るために必要と考えるデータ**を重点的に収集すること
 ことができます。

「アセスメントの枠組み」を活用してアセスメントを行う際は、「アセスメントの枠組み」1つひとつが「データ収集の目的」になります(図2)。

「目的なデータ収集」「系統的なデータ収集」とはどのようなことなのかを十分に理解しておきましょう。

図2 「アセスメントの枠組み」とデータ収集



アセスメントの
ポイント
2

「アセスメントの枠組み」を理解し、 これについてのデータ収集ができる

「アセスメントの枠組み」を活用してアセスメントを行う際は、前述したように「アセスメントの枠組み」1つひとつが「データ収集の目的」になりますが、この目的は抽象レベルが高いため、実際的には、この目的を具象化した「アセスメントの枠組みの指し示す対象をみる側面」が「データ収集の目的」になります(図3-①)。

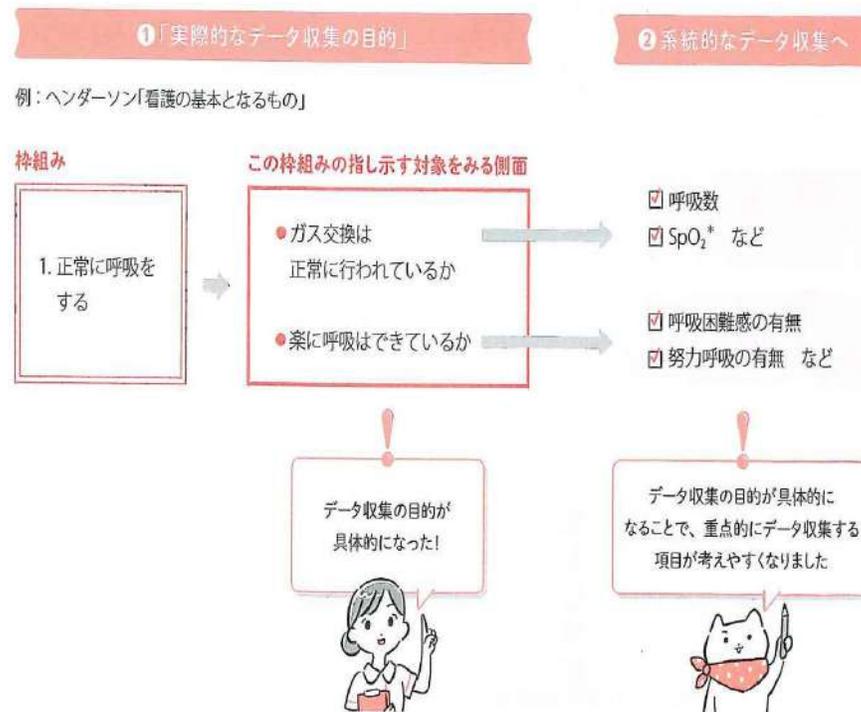
したがって、「アセスメントの枠組み」を活用してデータ収集を行う際は、「実際的なデータ収集の目的」となる各々の

「アセスメントの枠組みの指し示す対象をみる側面」を知っておく必要があるということになります。

これがわかっていると、上記同様、「アセスメントの枠組みの指し示す対象をみる側面」についての見解を得るうえで必要と考えるデータを重点的に収集することができます(図3-②)。

「アセスメントの枠組み」を活用してアセスメントを行う際の「実際的なデータ収集の目的」を十分に理解しておきましょう。

図3 「アセスメントの枠組み」における実際的なデータ収集の目的の例



*[SpO₂]percutaneous oxygen saturation



図2で取り上げたゴードンの「健康知覚-健康管理パターン」であれば、「この枠組みの指し示す対象をみる側面」は、「健康状態に対する認識はどうか」「健康管理状況はどうか」であるため、この2つが「実際的なデータ収集の目的」になります。

問題があるのではないかとと思われるデータが収集されたときは、そのデータに関するさらなるデータ収集ができる

データ収集をしているときに、**問題があるのではないかと**
思われるデータが収集されたときには、そのデータについて
の対象の状態をより**詳細に明らかにする**ために、さらなるデ
ータを収集していくことが重要になります。

たとえば、「食欲なし」というデータが収集された場合、こ
れは問題があるのではないかとと思われるデータであるため、
「食欲なし」という対象の状態をより詳細に明らかにするた
めに、

- いつから食欲がないのか
- 食欲のない程度は強くなっているのか・弱くなっているの
か・変わらないのか
- 現在の食事量はどうなのか
- どのようなものであれば食べられるのか

などのデータを収集し、「これらのデータを活用して、対象
の食欲についての状態を分析」していきます。その結果、「食
欲なし」が問題なのか否かが明らかになります。

問題があるのではないかとと思われるデータが収集された
ときには、そのデータについてさらなるデータを収集する必要
があるということを十分に理解しておきましょう。



アセスメントの
ポイント
4

データ分析の考えかたがわかり、 妥当性の高いデータ分析ができる

データ分析の観点は、収集したデータを活用して、「データ収集の目的」についての見解を出すということです。これは、アセスメントの枠組みのときは、「**実際的なデータ収集の目的**」についての見解を出すということになります。

たとえば、「対象の睡眠状態を明らかにする」であれば、「睡眠状態は〇〇である」という見解を出すことになります。アセスメントの枠組みが「認知-知覚パターン」であれば、「認知状態については〇〇である、感覚器系については〇〇である、疼痛^{とうつう}については〇〇である」という見解を出すことになります。

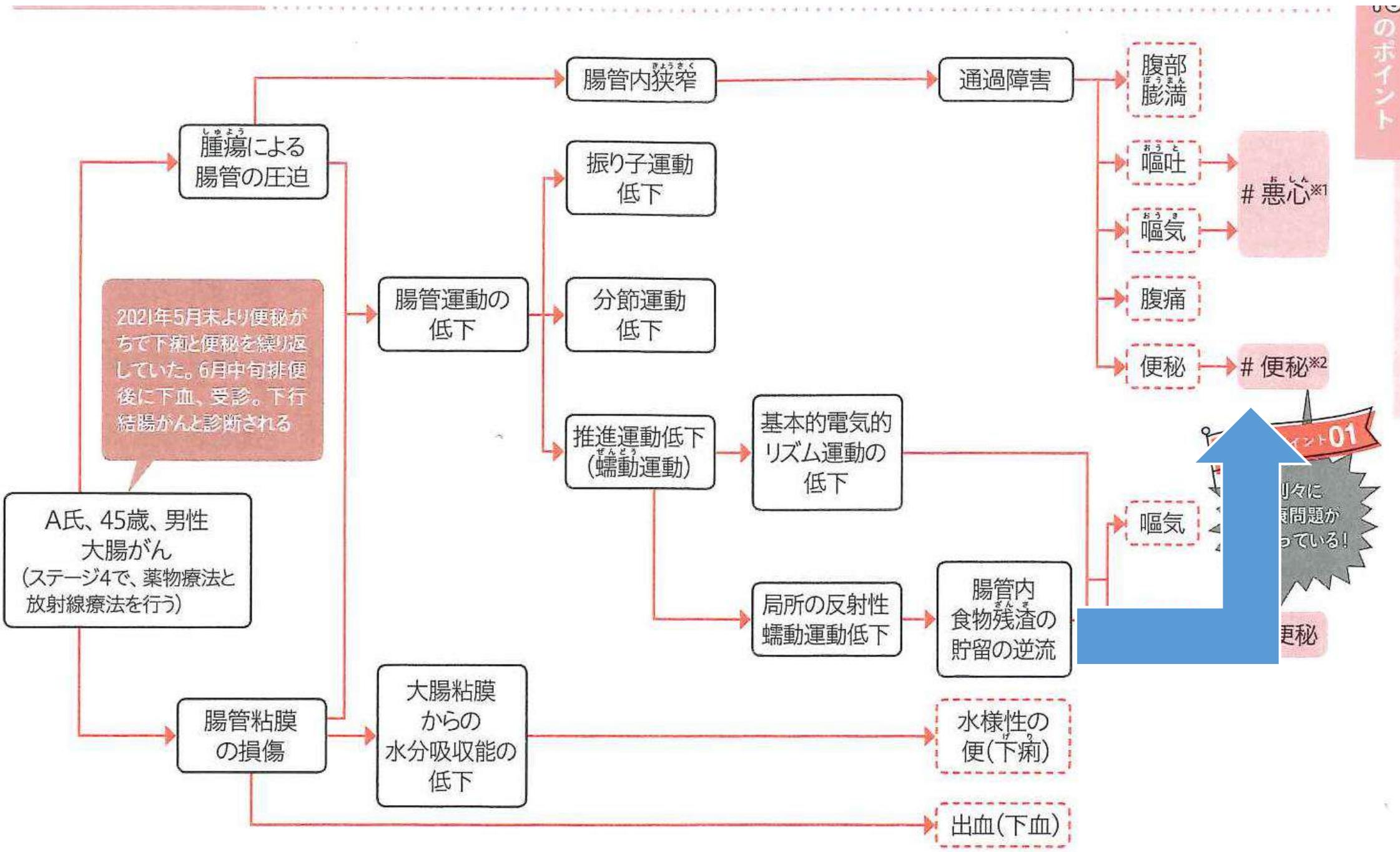
ただし、このような見解を出すにあたっては、「**収集したデータを活用して**」という前提があります。前提を受けて「デ

ータ収集の目的」についての見解を出すと、妥当性の高いデータ分析ができます。

データ分析の考えかたを十分に理解しておきましょう。

次ページから、
上記の4つのポイントを受けて
**アセスメントの実際を
みていきます!**





ポイント01
徐々に腹問題が起きている!
便秘

急性期は呼吸管理！！

早期に嚥下機能評価を実施し、誤嚥性肺炎の

再発予防のための看護！！！！



水巻さんkeyとなる情報

90歳代後半

失禁

転倒スコアⅢ

【既往歴】
高血圧
高脂血症

ノルバスク2.5mg
朝1錠内服

嚥下機能障害

【既往歴】
右被殻出血

左半身不全麻痺



嚥下機能低下

栄養摂取消費
バランス異常：
必要量以下

心臓職 1,400Kcal/日
塩分6g

全粥・汁とろみつき

食事摂取量

入院1日目：10%

入院2日目：30%~50%

入院3日目：50%~80%

酸素経鼻力ニューレ
2ℓ/分

SpO₂ 94%

苦し

非効果的
気道浄化

浅く努力様呼吸

左肺呼吸音弱い

黄色粘稠痰多い

全肺野副雑音聴取

体温38.4℃

ロセフィン点滴静脈用1g
大塚生理食塩水100ml 2回/日

ツルゴール低下

$2.6 \times 10^3 / \mu\text{L}$

BUN 35.6mg/dL

$2.6 \times 10^3 / \mu\text{L}$

Cr 1.67mg/dL

13.6mg/dL

痰培養：グラム陽性球菌

フルデム3A 500ml
60ml/H

体液量不足
リスク状態

転倒転落アセスメントスコア
17点

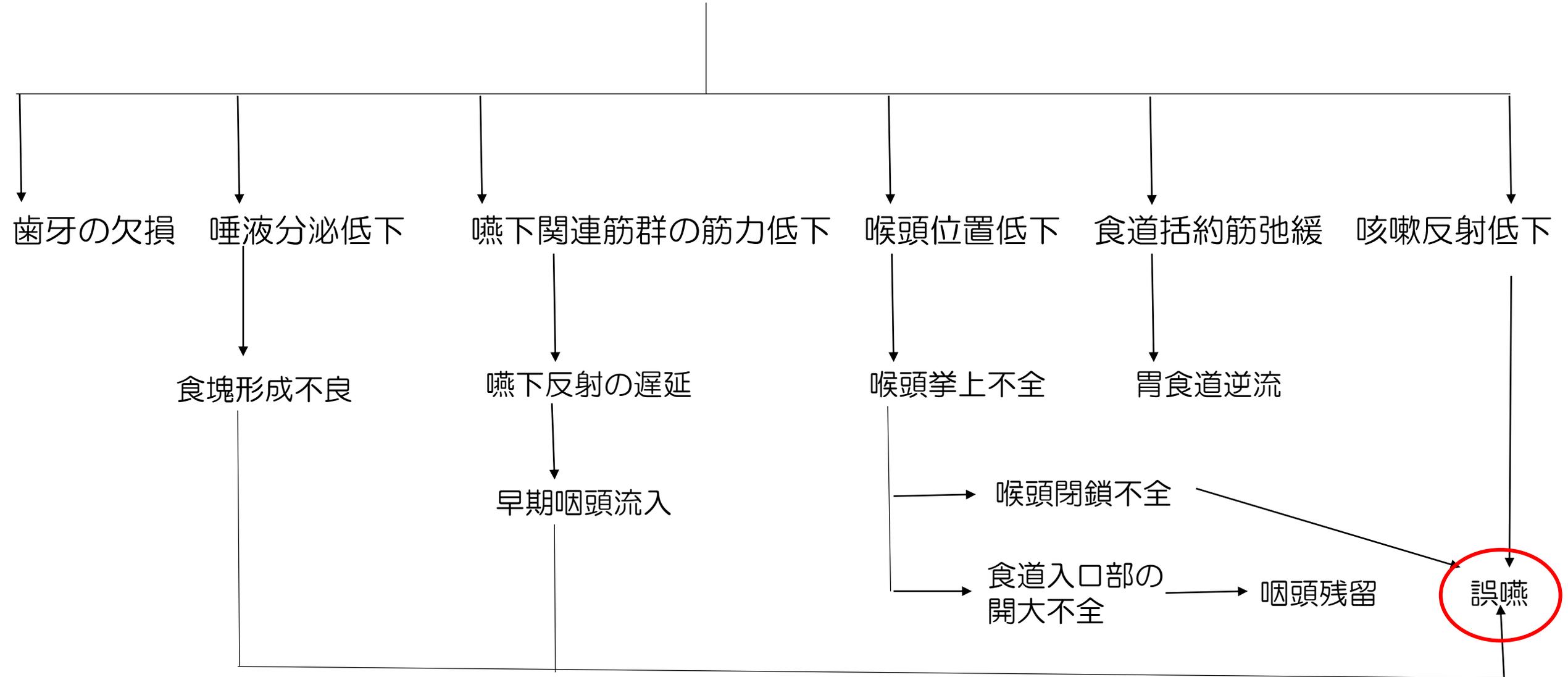
尿意・便意あいまい
日中トレーニングパンツ 夜間オムツ

ベッド上安静
車椅子にてトイレ可

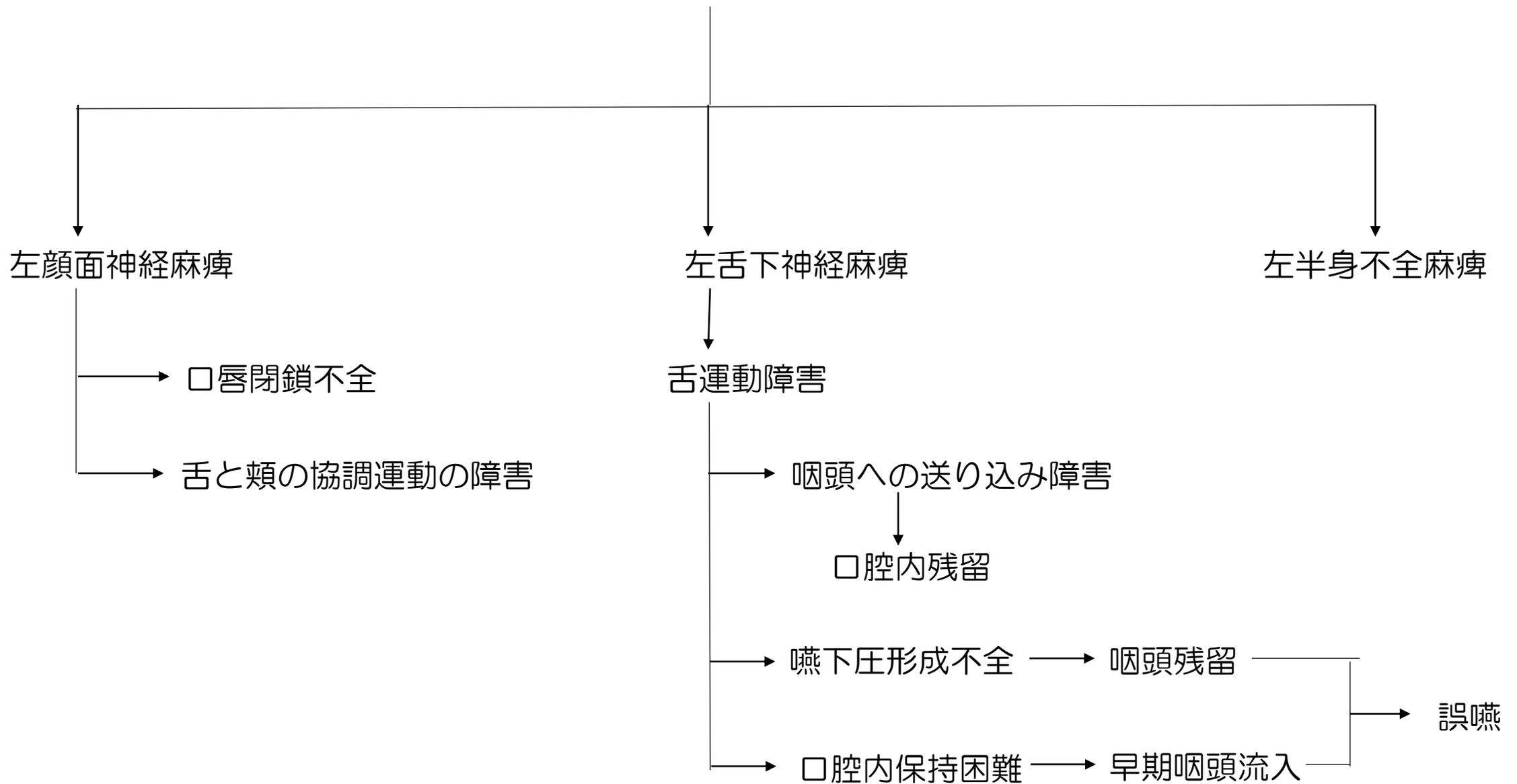
転倒・転落
リスク状態



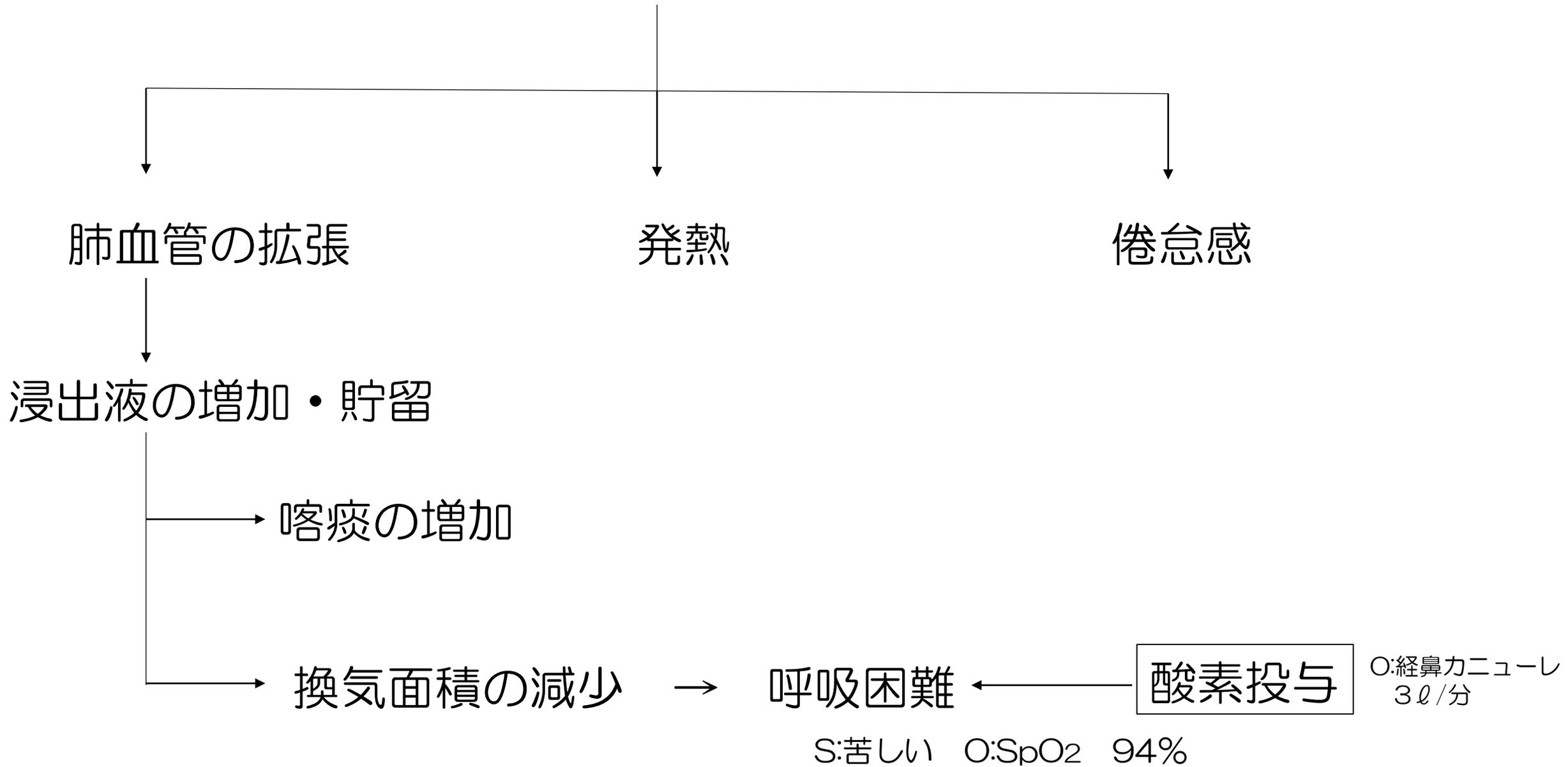
加齢による変化



右被殻出血の既往



誤嚥性肺炎



アセスメントをもとに**問題の明確化**

をしよう!!!

